

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	No.1	グループホームという枠の中だけでの目標になってしまい、地域との一体感が感じられないものになってしまっている。	地域とつながる理念をつくる。	独りよがりな理念にならないよう全職員に理念を考えてもらい、それをもとに職員会議で話し合い一つの理念にまとめる。誰から見ても分かる場所に理念を大きく掲示する。	1ヶ月
2	No.10	目安箱は設置してあるが、グループホーム側からのアクションが少ない。	家族の意見を積極的に聞く。	アンケート等を利用することにより家族の思いや意見を求める他、家族面会の際には全職員が一言声をかけ、気づいたことや思いを家族が話しやすい体制作りをする。	随時ヶ月
3	No.40	出来ないと思いついで職員が行ってしまう。入居者の出来ることを探していない。	一緒に作って一緒に味わう。	野菜を洗っていただいたり、皮むきをしていただくなど安全に出来ることを探す。またお米とぎや水加減、和え物などの味付けなどを聞くなどして料理に参加していただく。	随時ヶ月
4	No.4	日々の業務の中で職員が目標を把握出来ていない。会議に参加して頂くような呼びかけを積極的に行えていない。	目標を全職員が把握	全職員の目に付く場所に目標を貼り、朝の申送り時に声に出して読む。また月に1回の職員会議に於いて振り返りを行う。	3ヶ月
5	No.35	地域との連絡網がなく、消防署や消防団に対して呼びかけが少ない。	地域連絡網の作成	運営推進協議会で話し合い、自治会・消防団・駐在警察の方・入所者家族を含めた連絡網を作成したい旨を話し協力していただく。今まで参加したことのない地域や施設、家族等も今後参加していただけるよう文書や声かけを行っていく。	6ヶ月
6	No.5	入所者家族のみの相談になってしまっている。地域の相談窓口とは言えていない。また、地域住民に認知症の相談が出来る場所であることを認識されていない。	職員個々に認知症の専門知識を高め介護技術と理解を促す。	どんな形で地域の窓口になっていったら良いか市に相談し話し合せて共同で行えることはないか検討する。職員も認知症ケアの試験や研修で更に専門性を高める。認知症を広く知って理解していただけるように、ブログや施設だよりなどに掲載する。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。